令和５年度　幼児教育研修（年齢別担任研修３歳児・第２回）
「子どもとともに『おもしろがる』保育にむけて」
日時：令和５年７月２１日（金）１５：００～１７：００
会場：竹の塚地域学習センター
講師：東洋英和女学院大学　　准教授　塩崎　美穂　氏

動画（事例）から見えてくる**子どもの世界（おもしろさ）**を見取り、**保育者の関わり**を学びました。

事例 １　～ふたりだけの世界～

水たまりを見付けた

・園庭にできた水たまりを見付けるとその上をぐるぐると走り回る。
・水を跳ね上げながら足踏みしたり、四つん這いになったり…。
・水たまりから離れても、また戻って来る。

泥遊びへと発展

・四つんばいになり両手を地面に付け線路のような道をつくり始める。
・ボールを運んでくると、水たまりの上に置きその上に座ってみる。
・泥を投げる遊びが続く。

友達と一緒がいい

・葉っぱを運んできては、水たまりに浸す。
・泥水の付いた葉っぱをペタペタと触る。
・友達と一緒に、濡れた葉っぱを花壇近くのタイヤの中に運ぶことを繰り返す。

「やりたいことを全面的にやる」姿を保障する。

子どもの行為を否定せずに、何を楽しんでいるのかを見守っていく。

飽きて遊びが終わるのではなく、満足して終わることが大事である。

＊ 研修第１回で学んだ「3歳児の特徴」と合わせて考えてみよう ＊

『直観』で捉えている

遊びに対する**瞬発力の高さ**に驚かされる。

「もうご飯の時間だね、皆お部屋に入ってるよ」
「うん、わかった」
➡「返事をしたのに入らない。聞いてるのかしら？」

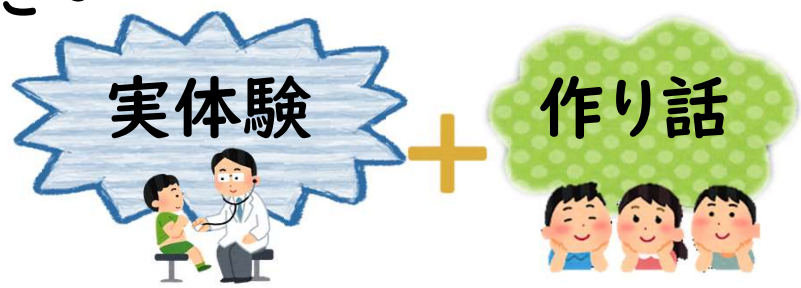
「お片付けしてきたよ～」と最後の最後に入室。
「えっ？　なんでみんな、給食たべちゃってるの！」

自分とまわりとの境があいまい

「自信満々」

事例 2 ～お医者さんごっこ～

・保育者が医者になり、「どこが痛いですか？」と診察をしている。
・子どもたちは「〇〇が痛いです」と体を触って伝えている。
・お医者さんごっこに興味を示した子どもたちは椅子に座って診察の順番を待つ。
・診察が終わると次の人に代わる。
・その後、保育者がいなくなっても子どもたち同士で医者と患者役になり遊んでいる。



ー 保育者と一緒に遊ぶ経験が大切 ー

保育者に「どうしましたか？」「何にしますか？」と**話しかけられることが嬉しい。**

喜びが「もう一回」につながり、**遊びが続く。**

保育者から学ぶことがあると、自分たちの**遊びの幅が広がる。**

事例 3 ～シャワー遊び～

・シャワーから出る水を砂場の玩具で抑えようとしている。
・バケツを離すと顔にしぶきがかかることを喜んでいる。
・シャワーの向こうに虹が見える。「わぁ、虹だ!」と喜んでいる。

子どもたち同士の世界で楽しんでいる時
保育者がどう関わっていくかを考える。

ー 子どもたちの発想を大事にしたい ー

「玩具の正しい用途」と違う使い方をしていたとしても、**子どもの発想を見守る。**

時間になったら片付けができることよりも、「わぁ～見て見て、虹が見える！」と嬉しそうにはしゃぐ**子どもたちに共感する。**

研修生の報告書より

3歳児のごっこ遊びでは、なりきるための小道具がなくても、すぐに役に入り込んで楽しめること、実体験と架空の設定を交えて遊んだり、説明したりすることが子どもたちにとって大切であることを学んだ。

映像を通して、一人の園児の様子をたどり遊びに向き合う姿や周りの人や物の環境、保育者の関わりなど多くの学びがあった。どこまで見守ればよいかと質問もあったが、そこを見極めるのが保育者の仕事だと感じた。